

# 【NAGASAKI HOTEL】長崎ホテル

3

## 世界に誇る、 珠玉のコレクション

写真技術は日本が開国する前後に長崎で確立し、日本全国に伝わりました。当時、日本の写真術の開祖と称される上野彦馬らが活躍。膨大な数の長崎の写真が残されており、長崎は写真史においても重要な場所といえます。

長崎大学が所蔵する「幕末・明治期 日本古写真コレクション」の内容は、主に外国人居留地である長崎・横浜を中心に、東京、京都、大阪、神戸やその他の観光地の風景・風俗・人物などを撮影したものです。その多くは当時の職業絵師により彩色されています。総点数は約6,000点(2003年3月末日現在)。近代日本の生い立ちを研究する貴重な資料として、我が国多数のコレクションになっています。

このコーナーでは長崎大学が所蔵するコレクションを基にそれにまつわるエピソード等を交えながら紹介していきます。

### 海辺に建つ瀟洒なホテル

赤い煉瓦造り三階建ての瀟洒な洋式ホテル——。長崎ホテルは明治三十一年(一九〇八年)九月下り松43(45番地) (図参照)に建てられた。写真にはホテルの前の通りに設けられた電柱や、植えられて間もない様子の街路樹、客待ちの人力車数台が写っている。開業間もない頃の風景である。

華やかな外国人居留地の歴史や風俗について著した浜崎国男氏の「長崎異人街誌」(一九七八年、叢書房)によれば、このホテルは「リンカー、イグラーバ」他外国人らの出資により株式会社として設立された。三年後の明治三十三年(一九〇〇)の記事によると、資本金十三万円、社債二十六万円で運営されていた(『ナガサキレビュー』)。

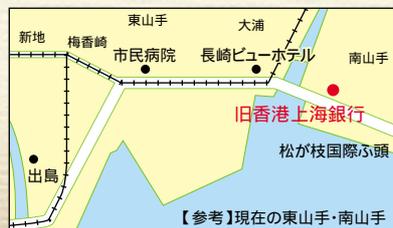
設計者は英国人技師のジョサイア・コンドル(一八五二—一九二〇)と伝えられている。コンドルは工部大学校造家学科後の東京大学工学部建築学科)の教師として迎えられ、上野博物館、鹿鳴館など多くの洋風建築を設計している。

### 近代的な装備で、至れり尽くせり

このホテルについて浜崎氏は、「大浦下り松のすばらしい気持のよい海岸通りにあつて、あたりの景観は実に絶景、それに室内は衛生的でかつ優美な装備が完全になされている。また諸設備は全て近代的な電気装置で、電灯、電気呼び鈴、電気火災報知器等があり、各室に電話機も備え付けてある」というようなその当時としては「まことに至れり尽くせりのホテルであった」と記している。フランスから「ムク長」を呼び、来客



【図】居留地時代の東山手・南山手



【参考】現在の東山手・南山手

を歓迎した。米一升がおよそ十銭の時代に、もっとも安い部屋で一泊四円であったという。また、茂木の港には長崎ホテル(茂木支店)も開業している。

隣の木造洋館(下り松42番地D)は、船員商アダムス商会もしくは機械や火薬を扱っていたアレクサンダー・ウオーカー商会のいずれかの店であった。

この長崎ホテルは後に、ホームリンカーがオーナーとなり、明治四十一年(一九〇八)まで営業された。

### 洋風建築に彩られた、明治の長崎

長崎で最初の外国人向け洋風ホテルは明治三年(一八七〇)開業の大浦海岸通のパンクエラスチオン・ホテルであった。続いて南山手十一番地にベルビュー・ホテル、大浦海岸通に「マツヤルホテル、オクシデント・ホテル」などが次々と開業。明治二十年から三十年代にはおよそ十六のホテルが営業しており、明治の長崎はいちどきに洋風建築で彩られていたのである。

長崎ホテル  
所蔵:長崎大学附属図書館  
[サイズ縦21.3cm×横27.2cm モノクロに彩色]

ホテル西側は道路を隔てて海に面していた。アーチ型も見られるベランダ部分は木造でモスグリーンに塗られていたと思われる。その2階左端に立つ白いドレス姿の女性は港の船を眺めているのであろうか、ロマンチックな雰囲気漂う。



長崎ホテル (絵はかき)  
所蔵:長崎大学附属図書館  
[サイズ縦9.1cm×横14.4cm]

絵はかきに印刷された長崎ホテル。その隣の石積みの重厚な建物は、旧香港上海銀行長崎支店(下り松42番地)で、明治37年(1904)、日本建築界の偉才・下田菊太郎の設計によって竣工。昭和63年、老朽化で解体計画が出たが、市民の運動で保存が求められ改修。現在も往時の姿を残し「長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館」として利用されている。

## 明治ロマン漂う長崎ホテル